

Japan International Education Society



日本国際教育学会

第 29 回研究大会

開催要項

2018年9月29日（土）・30日（日）

会場：一橋大学

1) 開催日程：2018年9月29日（土）・30日（日）

2) 大会会場：一橋大学 東キャンパス 東2号館および国際研究館
〒186-8601 東京都国立市中2丁目1番地

3) 大会スケジュール

9月29日（土）

9：30～	会場準備、受付
10：00～12：00	課題研究Ⅰ「高等教育における学住一体をいかに実現するか？ ー中国語圏における『現代書院制教育』の示唆ー」
12：00～13：00	昼休み、理事会（12:15～12:45）
13：00～14：30	自由研究発表1
14：45～17：15	公開シンポジウム「外国人留学生と国内学生の『混住寮』における 教育的機能を考える」
17：30～18：15	総会
18：30～20：30	懇親会

9月30日（日）

9：30～	会場準備、受付
10：00～12：30	課題研究Ⅱ「学校教育における組織的行動力の育成とソーシャル・ キャピタルー日本・台湾・タイでの取組みー」
12：30～13：30	昼休み
13：30～15：00	自由研究発表2

※スケジュールは多少、変更の可能性があります。

4) 参加費・懇親会費

大会参加費 3,000円 *非会員の方も臨時会員としてご参加いただけます。
懇親会費用 5,000円 *参加費用、懇親会費用は受付時にお支払いください。

*土日は学内売店、学食などすべて閉鎖しております。お手数ですが各日ご自身で昼食をご持参、ご準備いただきますようお願いいたします。

5) 公開シンポジウム（大会第1日目 9/29（土）、14：45～17：15、東2号館2階 2201教室）

テーマ：「外国人留学生と国内学生の「混住寮」における教育的機能を考える」

グローバル化は高等教育における人々（学生・研究者・職員）の国際的な流動化を高めるだけでなく、教育環境へも大きく影響を与えている。学生寮（宿舍）の機能変化もその一例

である。日本では、かつて、多くの大学で学生寮が学生運動の温床となり、閉鎖されたという過去がある。その後、1983年に始まった「留学生10万人計画」により、高等教育機関における留学生受入れが進むと、留学生の宿舎不足問題が生じ、国立大学を中心に国際交流会館（留学生専用宿舎）の建設が相次いだ。2008年の「留学生30万人計画」以降、留学生の卒業後の日本での就職が奨励されるとともに、日本人学生の海外留学促進とグローバル人材育成への支援策が取られるようになると、外国人留学生と国内学生が共に生活し、学ぶ場として、混住寮（混住型学生宿舎）が注目されるようになった。近年、多くの大学で「内なる国際化」や「共生」の理念の下、教育的目標を掲げる混住寮が次々と建設されており、外国人留学生と国内学生の交流を越えて、その教育的機能や効果が期待されている。また、混住寮と地域コミュニティや企業との連携も、混住寮の教育的効果を高める上でも重要になってきている。

本シンポジウムでは、混住寮の運営や動向に精通した研究者と実務者を招き、混住寮の教育的機能の理念と実践を論じることで、今後の混住寮のあり方を考えたい。

司会：秋庭 裕子（一橋大学）

シンポジスト：

- ・吉田 千春（明治大学・院生）
調査報告 日本と諸外国の混住寮調査
- ・阿部 仁（一橋大学）
事例報告1 一橋大学
- ・辻井 英吾（立命館アジア太平洋大学）
事例報告2 APハウス：立命館アジア太平洋大学の学生寮
- ・パク ミョンマン（UR Seoul Residence, CEO）
事例報告3 日本と韓国における民間による混住寮

6) 課題研究

(1) 課題研究 I（大会第1日目 9/29（土）、10：00～12：00、東2号館2階 2202教室）

テーマ：「高等教育における学住一体をいかに実現するか？—中国語圏における『現代書院制教育』の示唆—」

今日、日本の高等教育の現場では、さまざまな手法で改革が試みられているが、学生の教室外での主体的な学びをいかに促すか、教室の中と外をいかにシームレスに接続するかが異なる手法の間の共通の問題意識となっている。

「書院」とは、唐代に始まる伝統中国の教育機関であり、さまざまな形で台湾、朝鮮半島、日本、ベトナムに伝播していったものだが、近年、中国語圏（中国・台湾・香港・マカオ）の大学では、「書院」という言葉に新たな意味を付与する改革の動きが同時多発的に現れている。「書院教育」の名の下で行われる改革は様々な形態を持つが、座学による「知識」の教授を主とする学部・学科の授業とは異なる形で、体験を通じて「能力」を涵養することが共通

の特徴である。また、今日の中国語圏の大学による「書院教育」には、欧米の Residential College の要素を取り入れた「住宿式書院」として「学住一体」、即ち、「学び」と「生活」の融合を目指すものも少なくない。

本課題研究では、中国と台湾から今日の中国語圏における「書院教育」の動きに精通した研究者を招き、「現代書院教育」の理念と実践を論じることで、日本の高等教育への示唆を模索する。

司会：山崎 直也（帝京大学）

報告者：

・史 媛媛（中国・江蘇大学）

中国における現代書院制教育のあゆみと現況

・薛 雅慈（台湾・淡江大学）

台湾における現代書院制教育のあゆみと現況

コメンテータ：日暮 トモ子（目白大学）

(2) 課題研究Ⅱ（大会第2日目 9/30（日）、10：00～12：30、東2号館2階 2202 教室）

テーマ：「学校教育における組織的行動力の育成とソーシャル・キャピタルー日本・台湾・タイでの取組みー」

近年、教育領域におけるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の概念は、人々のつながりの喪失や孤立に伴う貧困問題や地域経済の発展に不可欠な資本としての認識を背景に、コミュニティの再形成、連帯、社会的ネットワークといった関連ワードとともに注目されている。日本の学校教育のカリキュラムでは、集団規範、価値、理解、信頼を通じた協力や貢献力といったソーシャル・キャピタルの形成に関して、主に教科外教育活動（道徳・特別活動・総合的な学習の時間など）における自主・実践的な領域に位置づけられてきた面が大きい。これらの教育実践の蓄積から、これまでの日本社会におけるソーシャル・キャピタルの土台が形成されてきたことは否定できない。しかし一方で、新学習指導要領の「社会を生き抜く力」の育成をめざした「主体的・対話的で深い学び」に関連するように、今後の社会変化に対応する組織的行動力の育成ならびに新たな取り組みが課題とされている。

本課題研究では国際教育の視点から他のアジアの国々の学校教育における教育実践とソーシャル・キャピタルの形成との関連について考えたい。日本と同様に震災を経験した台湾の高等学校における防災教育活動、タイにおける教科外教育である学習者発達活動の実践、そして、日本の伝統的な高等学校の応援団の活動に関する各報告を通じて、それぞれの社会・文化的特徴から当該課題について考察が深められることを意図する。

司会：金塚 基（東京未来大学）

報告者：

・郭 孟倪（国立暨南国際大学・院生）

台湾の高等学校における防災教育の理念と現状—南三陸町との比較を通じて—

- ・植田 啓嗣 (西九州大学)
タイにおける学習者発達活動—ボーイスカウトを中心に—
- ・金塚 基 (東京未来大学)
日本の高等学校における応援団の活動から

7) 参加申込 (締切 8月17日 (金))

日本国際教育学会ホームページからお手続きください。

日本国際教育学会ホームページ URL : <http://www.jies.gr.jp/> から

「大会参加登録・自由研究発表申込」のフォームへ進み、お手続き下さい。

8) 自由研究発表申込 (締切 7月20日 (金))

- ① 自由研究発表をご希望の方は、上記の参加登録フォームにて「自由研究発表希望」にチェックの上、自由研究発表申込フォームにご記入ください。

- ② 発表時間 30分 (発表20分、質疑応答10分)

*時間厳守でお願いいたします。

- ③ 自由研究発表有資格者 — 2017年度までの会費納入済み会員

非会員が発表を希望する場合は発表申込期限までに入会手続きを完了する必要があります。なお次回理事会は7月下旬に開催予定ですので、発表を希望される場合は入会申込書を7月20日(金)(必着)までに学会事務局にお送り下さい。入会方法については、学会ウェブサイトの入会案内をご覧ください。

- ④ 自由研究発表組み合わせ等

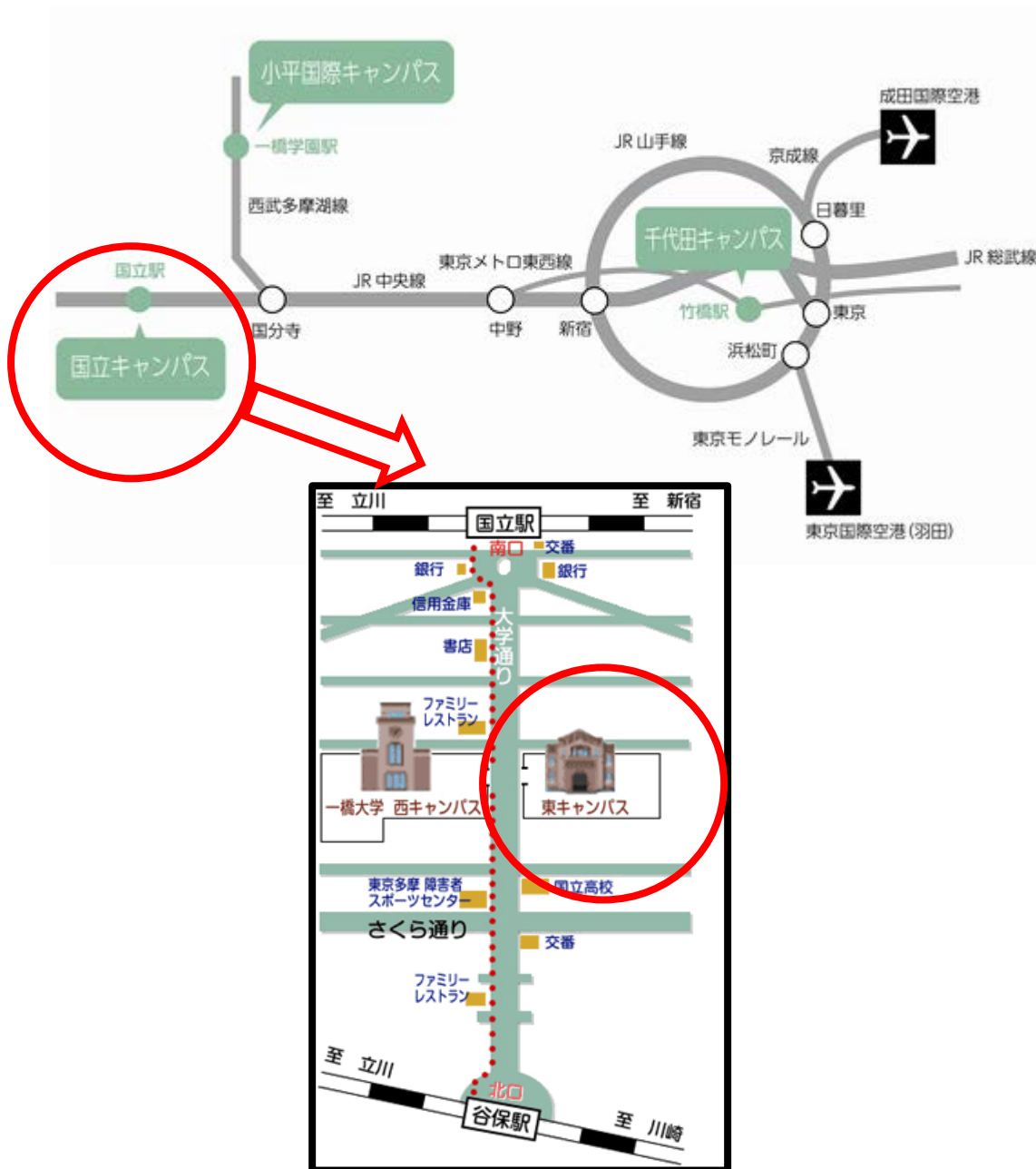
発表題目などを参考に実行委員会にて調整いたします。

- ⑤ 自由研究発表を申し込まれた方は、別紙「自由研究発表要旨」作成要領に基づき発表要旨原稿を8月17日(金)必着で、Eメールの添付ファイル(ワードファイルに限る)にて、日本国際教育学会第29回大会実行委員会事務局 (jies.hu2018@gmail.com) までご提出ください。

- ⑥ その他

自由研究発表内容に関して、学会事務局よりお問い合わせをする場合があります。あらかじめ御承知おきください。

9) アクセス:



【一橋大学 国立 東キャンパス】

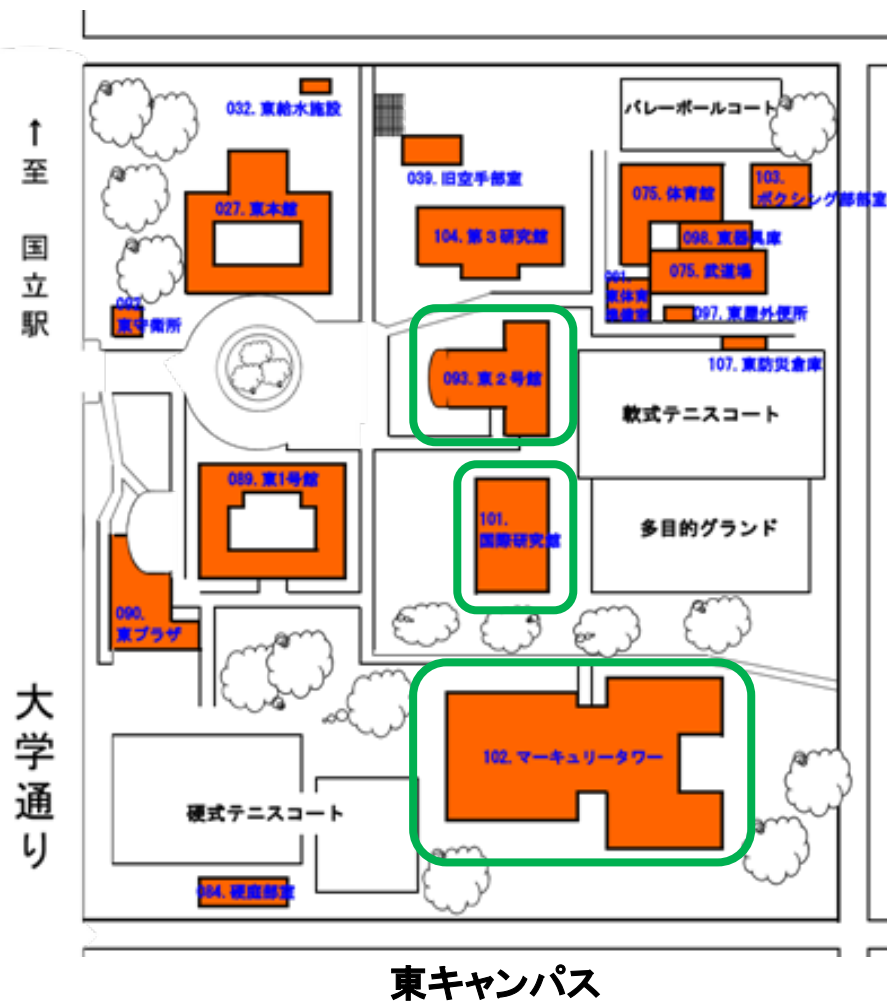
JR 中央線 国立駅 下車 南口 徒歩約 10 分

JR 南武線 谷保駅 下車 北口 徒歩約 20 分

バス 国立駅行 一橋大学下車 約 6 分

アクセスマップ: <http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/kunitachi.html>

【キャンパスマップ（東キャンパス）】



受付：東2号館1階 エントランスホール

総会・公開シンポジウム：東2号館2階 2201教室

課題研究Ⅰ・Ⅱ：東2号館2階 2202教室

自由研究発表：国際研究館1, 2階

*休憩場所：国際研究館1階の交流ラウンジをご利用ください（土日のため学食・売店は営業していません）。

*懇親会会場はマーキュリータワー7階を予定しております。

10) ホテル案内：お手数ですが、各自でご手配をお願いいたします。

※国立駅から1駅はなれた立川駅周辺にホテルが多数あります。

11) 大会事務局

日本国際教育学会第29回大会実行委員会事務局 jies.hu2018@gmail.com

〒186-8601 東京都国立市中2丁目1番地 一橋大学 国際教育センター 太田浩研究室